

2018年1月23日



報道関係各位

公益社団法人ジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグ

「B.LEAGUE ALL-STAR GAME 2018」反響・チケット購入者の属性レポート
～20代30代の女性を中心に一般販売チケットは2分で完売！県外からの来場者が半数超え～

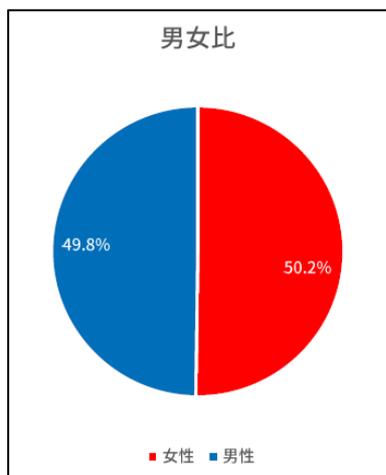
公益社団法人ジャパン・プロフェッショナル・バスケットボールリーグ(本社:東京都文京区、理事長:大河正明 以下「B.LEAGUE」)は、2018年1月14日(日)に熊本県立総合体育館で行なわれました「B.LEAGUE ALL-STAR GAME 2018」(以下、オールスター)の反響、チケット(B.LEAGUE チケット)購入者の属性レポートをご報告いたします。昨シーズンは東京・国立代々木競技場第一体育館で行われましたが、2016年4月に大地震に見舞われた被災地での復興支援という意味合いも込められ熊本での開催となりました。

入場者数は3,242人で満員(昨年9,567人)となり、一般販売チケットは売り出しわずか2分で完売となりました。実際に、開場と同時にスタンドは満席状態、試合前のコンテスト開催中からTwitterトレンドランキングにて、「#Bリーグオールスター」のワードが首位に浮上する等、大いに盛り上がりを見せていました。チケット(B.LEAGUE チケット)購買者のうち、21.5%が関東からの来場となり、地域活性の復興支援にも繋がりました。チケット(B.LEAGUE チケット)の属性詳細は以下よりご確認ください。(※1)

グッズ販売も好調に推移し、全体入場者に対し昨年度の18.3%を大幅に超える、27.3%がグッズを購入。オリジナルグッズは、くまモンが描かれる等、全て熊本に纏わるデザインで、家族連れや女性比率が増加した今回のオールスターにて大好評の結果となりました。また演出面でもB.LEAGUEが掲げる「エンターテインメント性の追求」を随所に施され、特にオープニングアクトでは4隅に設置されたビジョンに映し出された映像の後、暗転した会場内をLED搭載ドローンが旋回、B.BLACKの#7 小林選手(熊本ヴォルターズ)に宇宙からバスケットボールが降ってきたかのように、ドローンからバスケットボールがドロップ、またレーザーマッピングでコートラインが描かれ試合会場が完成する光の演出に大歓声が沸きました。その他にも、UV反応素材の衣装に身を包んだ地元鎮西高校ダンサーの出演等、革新的な取り組みと熊本の復興支援の両アプローチで創られた非日常の空間は、「バスケットボールを通じ、人の笑顔を増やす」、プロスポーツとしての意義を再確認するオールスターとなりました。引き続き、「BREAK THE BORDER」をスローガンにクラブ、リーグ一体となりバスケットボールファンの裾野を拡大して参ります。

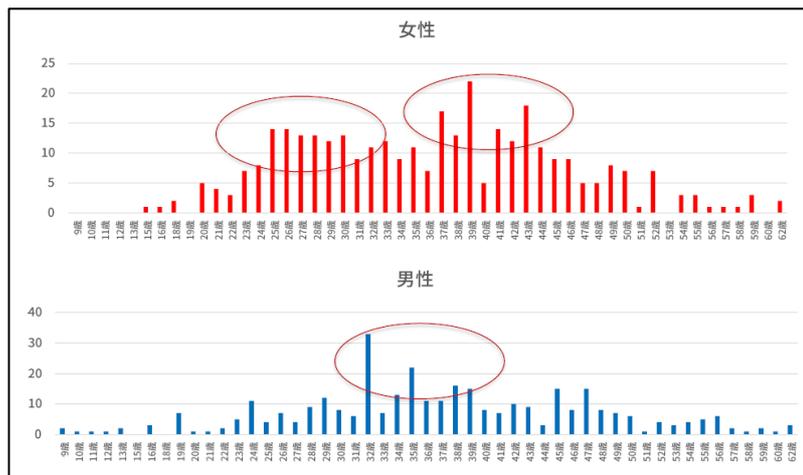


※1:入場者属性データ

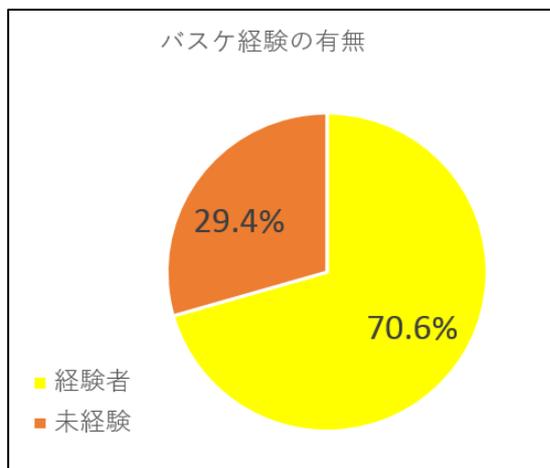


男女比ほぼ同じ
女性比率が昨年より 3.2%増加

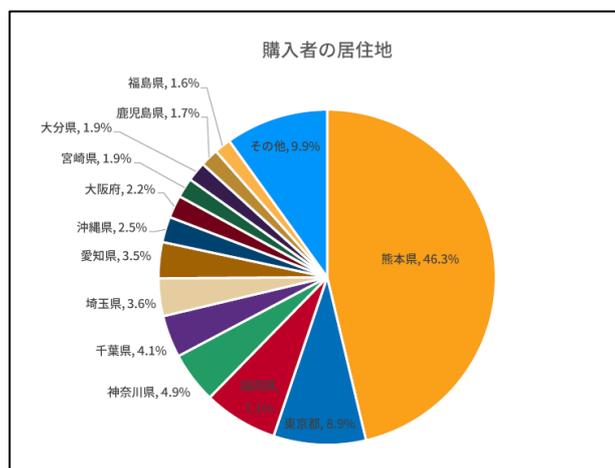
※B.LEAGUE チケットの属性データ



購入者層：女性 は 20 代、30 代後半から～40 代半ばが多く、
男性 は 30 代がメイン購入者



昨年は 69%が経験者で、経験者が微増



熊本県内からは 46.3%、関東から 21.5%

【ご参考】「B.LEAGUE ALLSTAR GAME 2017」試合結果・ゲームレポート

<https://www.bleague.jp/all-stargame2018/report>